

香南市学校等の規模適正化等基本方針について

令和6年1月
香南市教育委員会

1 基本方針策定の背景

全国的に少子化の進行に伴う、児童生徒数の減少や学校規模の縮小等による学校運営や教育環境の課題が発生しているなか、

平成27年1月	文部科学省が、「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を策定し、全国の市町村教育委員会に学校の在り方についての検討を促す。
平成29年10月	香南市教育委員会より、香南市学校等の規模適正化等検討委員会に対し諮問
令和2年3月	検討委員会より教育委員会に対し「香南市学校等の規模適正化等について(答申)」

「香南市学校等の規模適正化等について(答申)」のなかでは、

- ・規模、配置、通学区域等の基本的な事項に関すること
- ・規模の適正化に関すること
- ・配置の適正化に関すること

などの諮問事項に対して、新設や統合する場合は津波浸水想定区域外に設置することや市全体の校区見直しを含めて検討を行うこと、保護者や地域住民に十分な説明を行い、理解と協力を得ながら進める必要があることなどの検討結果が示されました。



令和5年10月

検討委員会からの答申を受け「香南市学校等の規模適正化等基本方針」を策定

【基本方針策定における重要な視点】

○学校規模の大小によるデメリットの顕在化

全国的に少子化が進行するなか、香南市においても1学年1クラスや複式学級の学校が多くなっています。小規模な学校には、児童生徒の学習状況等を把握しやすく、きめ細やかな指導が行いやすいなどの長所がある一方で、

- ・クラス替えができない
- ・クラブ活動の種類が限定される
- ・経験年数や専門性などのバランスがとれた教職員の配置が困難
- ・教職員一人当たりの負担が増える

などの学校運営上の課題が生じ、児童生徒に影響を与える場合があります。

○南海トラフ地震被害後における早期の教育再開

今後発生が予想される南海トラフ地震では、特に沿岸部で津波被害が予想されます。市内の学校等においては日頃から避難訓練を実施し、沿岸部の学校施設近くには避難タワーも整備されています。しかしながら、学校施設が津波被害を受けると復旧には相当な時間を要します。東日本大震災で被害を受けた宮城県では、全ての学校の再建完了まで10年かかっています。また、再建に時間を要したことから子どもたちの生活だけでなく、学力への影響も顕著に出たとのことです。

○自力での避難が困難な園児たちのために

小中学校と同様に保育所・幼稚園においても日頃からの避難訓練に取り組んでいますが、小中学生に比べると避難に多くの時間を要します。また、低年齢児においては限られた時間での避難行動には多くの人員や支援が必要になります。

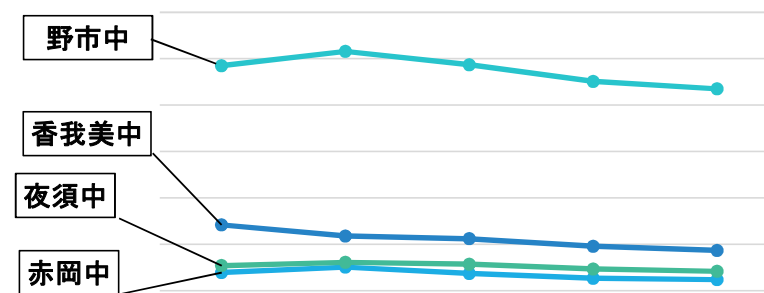
児童生徒が集団の中で多様な考え方に触れながら互いに学び合えるよう、一定規模以上の学級数確保を目指すこととしました。

被害後の一刻も早い教育の再開によって、子どもたちの日常ができるだけ早く取り戻せるよう、津波浸水想定区域にある学校等については、浸水想定区域外に統合することとし、保育所・幼稚園については、優先的に高台移転や認定こども園化を検討することとしました。

2 学校規模の現状と将来

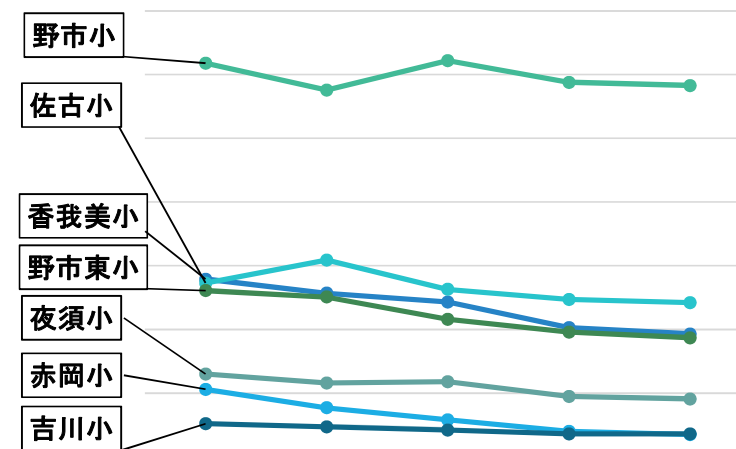
- ・中学校の生徒数 ・中学校全体の生徒数は、令和5年度以降減少傾向で、令和23年度は令和5年度に比べて約160人減少する見込みです。

	R1年度	R5年度	R10年度	R18年度	R23年度
赤岡中学校	39	51	37	27	24
香我美中学校	142	118	112	96	87
野市中学校	485	516	487	451	435
夜須中学校	54	61	57	47	42
計	720	746	693	621	588



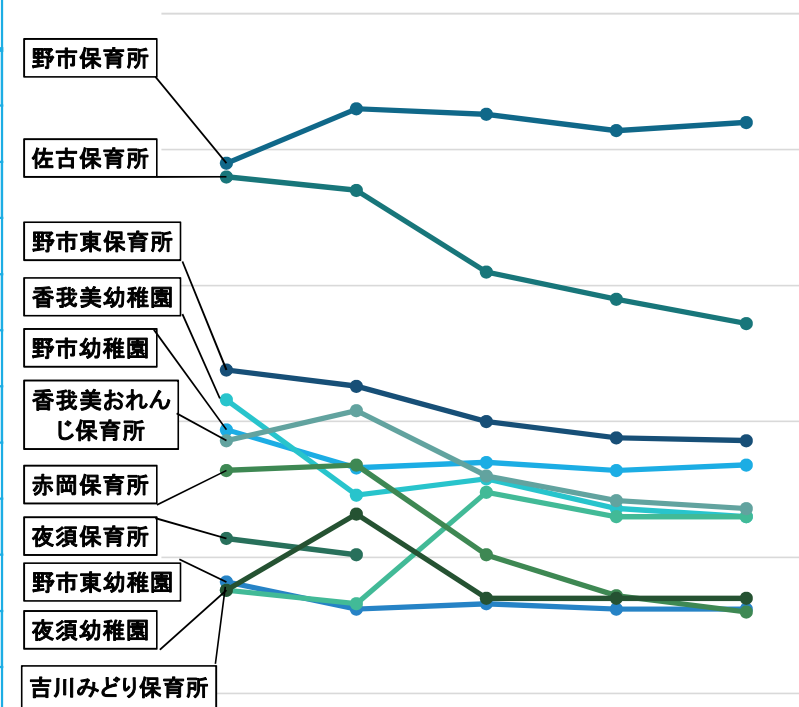
- ・小学校の児童数 ・小学校全体の児童数は、中学校同様に減少傾向で、令和23年度は令和5年度に比べて約260人減少する見込みです。

	R1年度	R5年度	R10年度	R18年度	R23年度
赤岡小学校	106	77	58	40	35
香我美小学校	279	257	243	203	193
佐古小学校	273	309	263	247	242
野市小学校	618	576	622	588	583
野市東小学校	261	251	216	196	187
夜須小学校	130	116	118	95	91
吉川小学校	52	47	42	36	36
計	1719	1633	1562	1405	1367



・幼稚園、保育所の園児数 ・幼稚園・保育所の園児数も、小中学校同様に減少傾向で、令和23年度は令和5年度に比べて約220人減少する見込みです。

	R1年度	R5年度	R10年度	R18年度	R23年度
野市幼稚園	97	83	85	82	84
野市東幼稚園	41	31	33	31	31
香我美幼稚園	108	73	79	68	65
夜須幼稚園	38	33	74	65	65
赤岡保育所	82	84	51	36	30
香我美おれんじ保育所	93	104	80	71	68
野市保育所	195	215	213	207	210
野市東保育所	119	113	100	94	93
佐古保育所	190	185	155	145	136
夜須保育所	57	51	—	—	—
吉川みどり保育所	38	66	35	35	35
計	1058	1038	905	834	817



※夜須幼稚園と夜須保育所は令和6年1月に認定こども園として統合

3 学校等整備の基本方針

【基本方針における2つの原則】

- ・津波浸水想定区域に位置する保育所・幼稚園・小学校・中学校は浸水想定区域外に位置する施設と再編する。
- ・既存の施設をできる限り活用する。

【その他】

- ・市全体の校区等の見直しも含めて検討する。
- ・通学区が拡大する場合は、地域の実情に応じスクールバス等を運行する。
- ・小中学校の規模は、1クラス20人以上で1学年2クラス以上を目指す。
- ・保育所・幼稚園の規模は、特に集団活動が重要となる4歳児・5歳児クラスについては、20人以上を目指す。

4 規模適正化・適正配置の基本的な考え方

	R5年度 学級数	津波浸水 想定区域	規模適正化・適正配置の基本的な考え方
赤岡中学校	3学級(小規模校)	区域内	津波浸水想定区域外の学校との再編
香我美中学校	5学級(小規模校)	区域外	現施設を活用し、津波浸水想定区域内の学校との再編
野市中学校	15学級(適正規模校)	区域外	現施設を活用して存続
夜須中学校	3学級(小規模校)	区域内	津波浸水想定区域外の学校との再編
赤岡小学校	6学級(小規模校)	区域内	津波浸水想定区域外の学校との再編
香我美小学校	10学級(小規模校)	区域外	現施設を活用し、津波浸水想定区域内の学校との再編
佐古小学校	12学級(適正規模校)	区域外	現施設を活用して存続
野市小学校	19学級(大規模校)	区域外	現施設を活用して存続
野市東小学校	11学級(小規模校)	区域外	現施設を活用し、津波浸水想定区域内の学校との再編
夜須小学校	6学級(小規模校)	区域内	津波浸水想定区域外の学校との再編
吉川小学校	4学級(過小規模校)	区域内	津波浸水想定区域外の学校との再編

4 規模適正化・適正配置の基本的な考え方

	R5年度 クラス数	津波浸水 想定区域	規模適正化・適正配置の基本的な考え方
野市幼稚園	5クラス	区域外	継続
野市東幼稚園	3クラス	区域外	野市東保育所と統合し、認定こども園化を検討
香我美幼稚園	5クラス	区域外	香我美おれんじ保育所と統合し、認定こども園化を検討
夜須幼稚園	2クラス	区域内	令和6年1月、認定こども園として統合
赤岡保育所	7クラス	区域内	・津波浸水想定区域外の保育所、幼稚園で受入 ・津波浸水想定区域外に幼保連携型認定こども園を新設
香我美おれんじ保育所	7クラス	区域外	香我美幼稚園と統合し、認定こども園化を検討
野市保育所	11クラス	区域外	対象年齢児そのままし、継続
野市東保育所	7クラス	区域外	野市東幼稚園と統合し、認定こども園化を検討
佐古保育所	11クラス	区域外	対象年齢児そのままし、継続
夜須保育所	5クラス	区域内	令和6年1月、認定こども園として統合
吉川みどり保育所	4クラス	区域内	・津波浸水想定区域外の保育所、幼稚園で受入 ・津波浸水想定区域外に幼保連携型認定こども園を新設

5 再編に伴う課題と対応

学校等の再編推進にあたっては、次の課題に留意しながら取り組んでいきます。

課 題	対 応
通学手段の確保	<ul style="list-style-type: none">・通学が遠距離になる児童生徒に対しては、スクールバス等を運行する。・通学時間は、できる限り短時間となるようにする。
保護者・地域住民の理解と協力	<ul style="list-style-type: none">・地域の協力のもとでコミュニティスクールなどの取組みを引き続き進める。・再編前の学校や地域の歴史・伝統を尊重し、新しい学校に継承する。
放課後の安全な居場所の確保	<ul style="list-style-type: none">・放課後児童クラブや放課後子ども教室など、再編に伴い必要な施設整備を実施する。
乳幼児期における教育・保育	<ul style="list-style-type: none">・地域と連携し、充実した乳幼児教育の実施を目指す。・乳幼児教育が適正に行われるように、保育者の配置やクラス編成を行う。
教育予算の集中投資	<ul style="list-style-type: none">・施設整備等（ハード面）とともに、支援員の配置や特色ある教育活動費の確保等（ソフト面）の充実を図る。
跡地・跡施設の利用	<ul style="list-style-type: none">・地域コミュニティの拠点としての機能や、地域スポーツの場、災害時の避難場所などの役割を損なうことがないように、地域住民の皆さんと活用方法を検討する。

6 今後の予定について

令和5年度に実施した説明会での意見などを参考にし、令和6年度には具体的な学校再編案を作成する予定です。再編案につきましても、意見や提案をいただくように考えており、令和6年度末には再編計画を盛り込んだ「基本計画」を策定するようになっています。